

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年10月7日
枚方市立楠葉中学校

文部科学省が今年4月に実施した『令和4年度全国学力・学習状況調査』の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。この結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、基本的な生活習慣の確立について保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

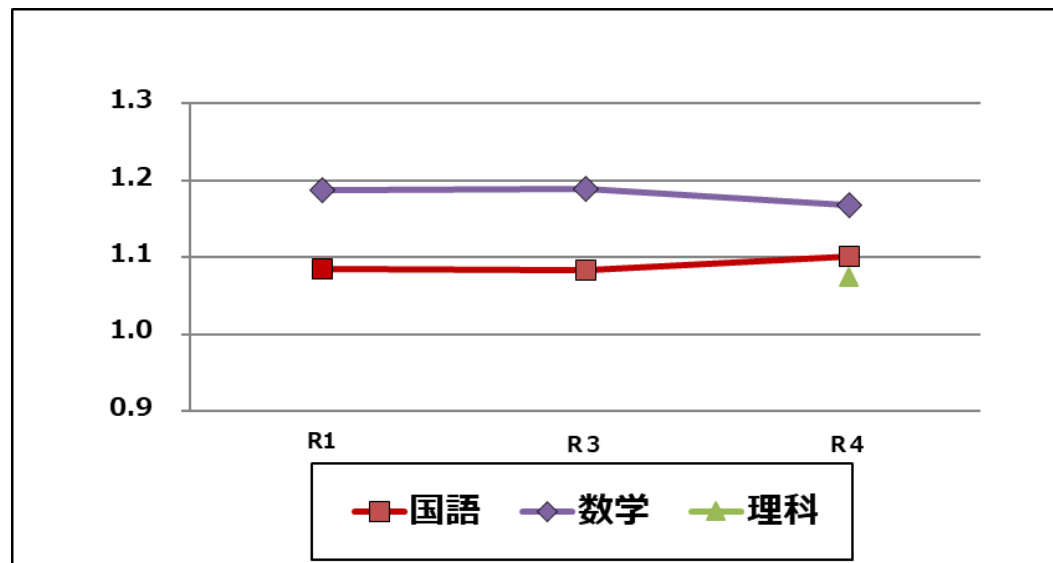
【全体概要】

学力調査の結果

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。

《全国の平均正答率を1とした経年比較》



※令和2年度は本調査中止、また、理科は令和4年度のみ実施されました。

＜学力調査結果の概要＞

- 国語について
 - ➡ほとんどの問題で正答率が全国平均を上回り、無解答率も低く、授業で取り組んでいることが成果としてしっかり表れたと推察されます。
- 数学について
 - ➡ほぼすべての問題で正答率が全国平均を上回っています。課題としては、自分で問題点を見出すことであり、日頃の授業から取り組んでいきたいと考えます。
- 理科について
 - ➡ほとんどの問題で正答率が全国平均を上回り、無解答率も低くなっています。自分の意見を文章で表現する取り組みが成果として表れたと考えられます。

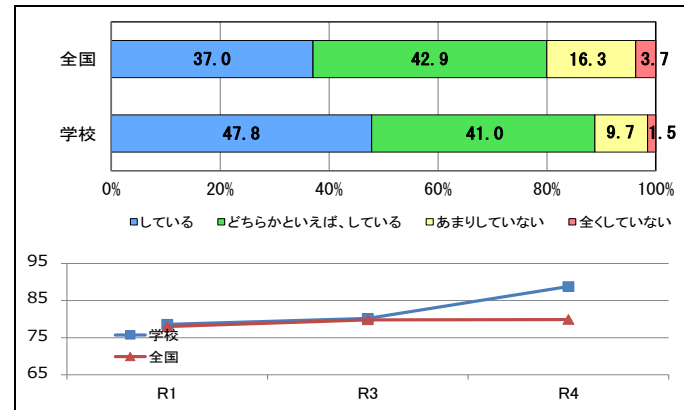
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

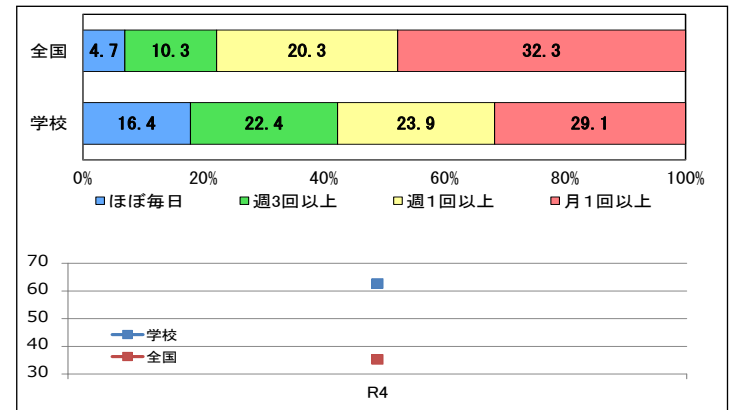
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国
■ 本校

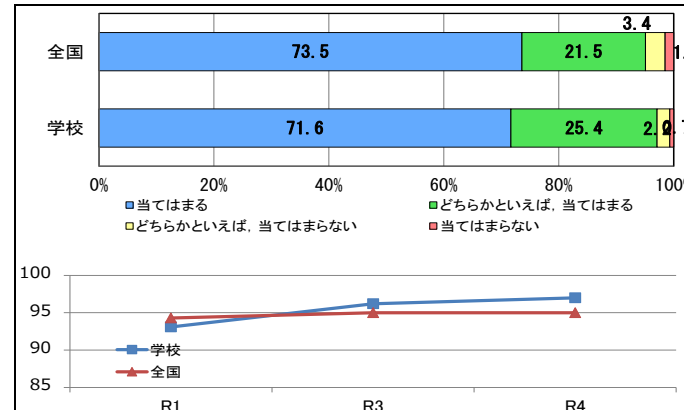
毎日、同じくらいの時刻に寝ている



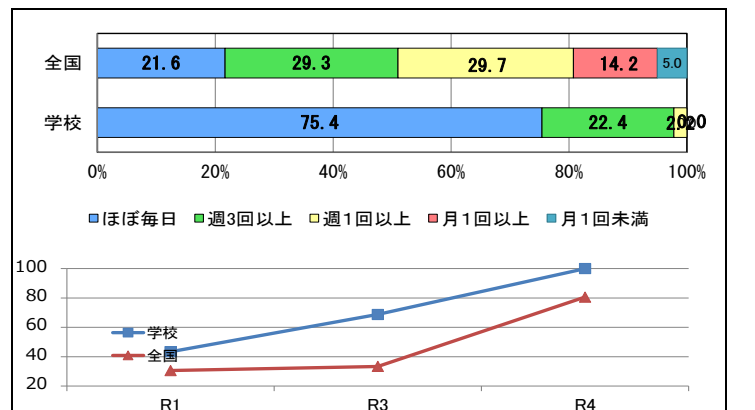
学校で自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか



人の役に立つ人間になりたいと思う



1・2年生の時受けた授業で、PC、タブレットなどのICT機器をどの程度利用しましたか



＜質問紙調査結果の概要＞

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」割合が高く、生活習慣が身につけていることが伺われます。
- 「総合的な学習の時間」に取り組んでいる課題解決型探究学習が「人の役に立つ人間になりたいと思う」の肯定的回答の増加に繋がったと推察されます。
- 授業において、自分の考えをまとめたり、うまく伝えるよう工夫して発表する際にタブレット(iPad)等を積極的に活用している生徒の割合が増加しています。

＜まとめ＞

学力調査の結果から全体的に基礎的な学力はついており、国語、数学、理科ともに全国平均を上回っています。また、国語、数学、理科ともに記述式の問題への無回答率は全国平均より低く、授業等で「自分の考えを広げたり深めたりする」や、「他者と協働して学習する」などの活動が、困難な課題や問題に対しても意欲的に取り組む姿勢に繋がっていると考えています。一人一台の端末の利活用によって「自ら学ぶ」姿勢の育成に家庭とも連携して取り組む必要があると考えます。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しています。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。

2 小林さんは、国語の時間に、「先端技術との関わり方」というテーマで意見文を書いています。次は、文章作成ソフトを使って小林さんが書いた【意見文の下書き】と友達が書いた【コメントの一部】、小林さんがコメントを受けて書いた【最終下書きのウェブページにある資料の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【意見文の下書き】

私たちの生活は、先端技術により、わずかな期間で大きく様変わりしてきている。便利なことが増えてよいく感じだが、目的に応じて選択して活用することが大切だと感じる。

そう考えるようになったのは、農業を営み、広大な農場を二人で管理している祖父が、スマート農業についての話を聞いたからだ。祖父は、今年に入ってからロボットトラクターを導入し、作業の一部を自動化した。そのおかげで、農場を耕したり種をまいたりすることに加え、車を乗りこなくて作業も物々しく進むようになったという。先祖が経験したことを学ぶ人々の紹介記事、物に取り回られているものはないかを聞いてみた。すると、「スマート農業に関連する様々な先端技術はあるが、これまでの経験を生かして対応できるので、物には取り回されていない」とのことだった。スマート農業には、作業を自動化すること以外の側面もあるようだ。しかし、祖父は、自分たちに必要なものを選択して活用していた。

これは、私たちが意識しなければいけないことだと思った。今後、身の回りには様々な先端技術がさらに普及していくだろう。私も祖父のよう、選択しながら先端技術を活用していきたい。

【コメントの一部】

上野
物にどのような効果があるのかを具体的に書いた方がいいのではないだろうか。

中村
私も同意です。スマート農業の効果を書き加えることで、小林さんが、自分の考えの根拠として示していることの重要性が分かりますよ。

【最終下書きのウェブページにある資料の一部】

スマート農業について

「農業」×「先端技術」＝「スマート農業」

「スマート農業」とは、「ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業」のこと。

▶「生産現場の課題を先端技術で解決する！農業分野におけるSociety5.0の実現」

◎スマート農業の効果

- ① 作業の自動化
ロボットトラクター、スマート灌漑システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に。
- ② 情報共有の効率化
位置情報と連携した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の支援になることが可能に。
- ③ データの活用
ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データなどの活用により、農作物の生育や病害を予測し、高度な農業経営が可能に。

	正答率	無解答率
本校	48.5%	1.5%
全国	46.5%	9.0%

（考察）
○正答率は全国平均を少し上回る結果でしたが、無解答率が全国平均9.0%に対して1.5%でした。
▶記述することに対して抵抗感がなくこれは授業で普段から自分の考えを書くことを取り組んでいる成果と考えられます。また、書いたことを互いに交流し、多面的に物事を考えたり、表現の工夫などを学び合う取り組みができているといえます。

	正答率	無解答率
本校	32.8%	0.0%
全国	39.4%	0.9%

（考察）
○唯一、正答率が全国平均・大阪府平均を下回った設問である「行書の特徴」について、正答率が32%であった。半数以上の生徒が「筆順の変化」した部分を「点画の省略」と答えています。多くの生徒が行書の4つの特徴について定着できていないと考えられます。
▶行書の4つの特徴を理解して書く取り組みが必要であると考えます。

<数学>

成果や課題があった設問

【成果】

一次関数(思考・判断・表現)

(2) 愛理さんは、7日目までの取り組みの結果から、目標を達成できるのがおよそ何日目になるかを予測することにしました。

そこで、下の二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフにおいて、原点Oから点Gまでの点が一直線上にあるとし、このまま同じように取り組みを続け、二酸化炭素削減量の合計が一定の割合で増加すると仮定して考えることにしました。

二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフ

このとき、目標の300kg削減を達成できるのがおよそ何日目になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に何日目になるかを求める必要はありません。

	正答率	無解答率
本校	53.0%	14.2%
全国	38.4%	24.4%

（考察）
記述式の解答が求められる問題です。正答率・無解答率、どちらも全国を大きく上回っています。この課題は「総合的な学習の時間」でも、SDGsの一環として学んでいます。日々の授業で他者と協働し、話し合うことで、自らの考えを広げたり深めることができていると思われれます。また、それらをしっかりと言語化(文章として表現)することで、学習の基盤となる言語能力の向上に効果があったといえます。

【課題】

行書の特徴を理解する。

4 以下の行書(草書)の「希望」と「希望」とを比べて、行書の特徴を説明しなさい。

中国-16

中国-17

4 以下の行書(草書)の「希望」と「希望」とを比べて、行書の特徴を説明しなさい。

4 以下の行書(草書)の「希望」と「希望」とを比べて、行書の特徴を説明しなさい。

【課題】

式の説明(思考・判断・表現)

(3) 同じ2つの偶数の和や、差が4である2つの偶数の和のほかにも、2つの偶数の和がいつでも4の倍数になることがあります。どのような2つの偶数のとき、その2つの偶数の和が4の倍数になりますか。前ページの予想2のように、「～は、……になる。」という形で書きなさい。

	正答率	無解答率
本校	39.6%	23.1%
全国	37.6%	26.2%

（考察）
上記と同じ観点・問題形式ではあるが、上記の問題ほど全国との差が大きくありません。この問題は自分で新たな事柄を見出し、それについて説明する能力を問われていますが、細かいデータを見れば説明よりも新たな事柄を見出すことに課題がありました。今後の授業でも単に問題を解くだけでなく、条件を変えることでその結果にどのような変化が起こるのかについて考え、自分で課題を見出す力をつけていきたいと考えます。

<理科>

成果や課題があった設問

【成果】 生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する

アリの行列のそばにいた、アリと列見が似た生物Xに気付き、観察を行いました。

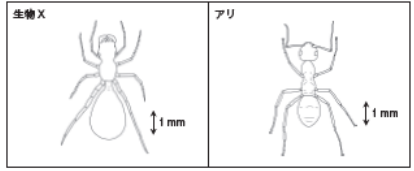
レポートの書きの一部

【新たな課題】
生物Xは昆虫か。

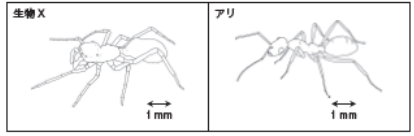
【観察】
生物Xとアリを透明なビンに入れ、それぞれスケッチして比較する。

【観察の結果】

上



横



【考察】
.....

(3) 生物Xは昆虫かどうか、下のア、イの中から1つ選びなさい。また、その根拠を書きなさい。

ア 昆虫である イ 昆虫でない

	正答率	無解答率
本校	49.3%	0.0%
全国	39.2%	1.4%

(考察)

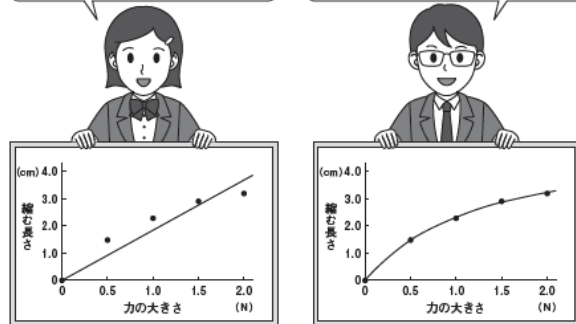
- 記述式の問題で、無解答率が最も低かった問題です。
- 生物Xのつくりを観察し、アリと比較して昆虫かどうかを判断する問題です。
- ➡比較するための基準を設定するにあたって、昆虫Xとアリを多面的に比較して、分類の観点を踏まえて、自分の意見を文章で表現できていたと考えます。

【課題】 考察の妥当性を高めるために、測定範と刻み幅をどのようにして調整して測定点を増やすか説明する。

グループで個人の考察を検討している場面

グラフが原点を通る直線になるので、比例すると考えます。

グラフは原点を通るけれど、直線にはならないので、比例しないと考えます。



測定値が足りないため、どちらの考えが妥当か判断できません。

(3) 下線部について、測定値をどのように増やせばよいか、【実験の計画】の「加える力の大きさを0から0.5Nずつ2.0Nまで変化させた」の部分を見て書きなさい。

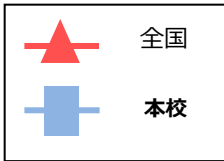
	正答率	無解答率
本校	56.0%	19.4%
全国	43.3%	29.4%

(考察)

- 最も無解答率が高かった問題です。
- 実験結果から考えられる考察について、複数の意見が出たときに、どちらがより妥当かを判断するための改善案を模索する問題でした。
- ➡実験結果を考察するときに、1つの正解を教えるのではなく、複数の意見を出して、どちらがより正しいと考えられるかを議論させるような取り組みが必要であると考えます。

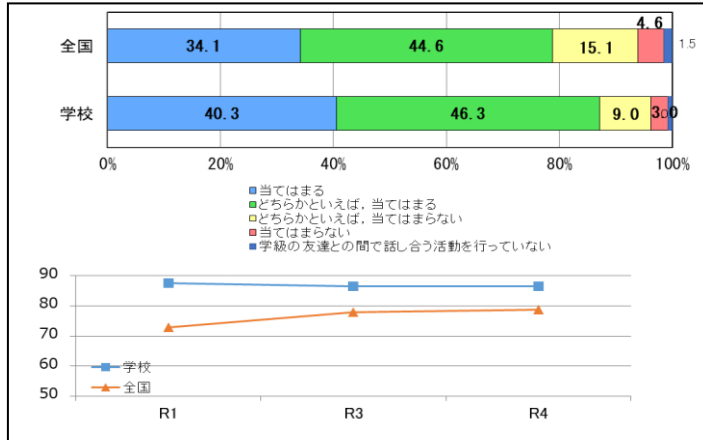
質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合があります。

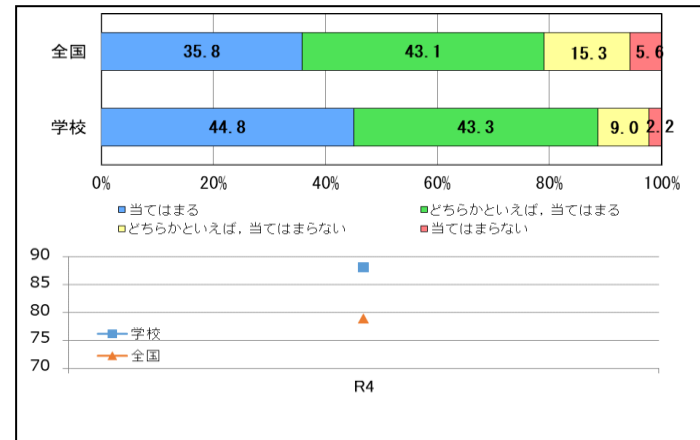


【成果のあった項目】

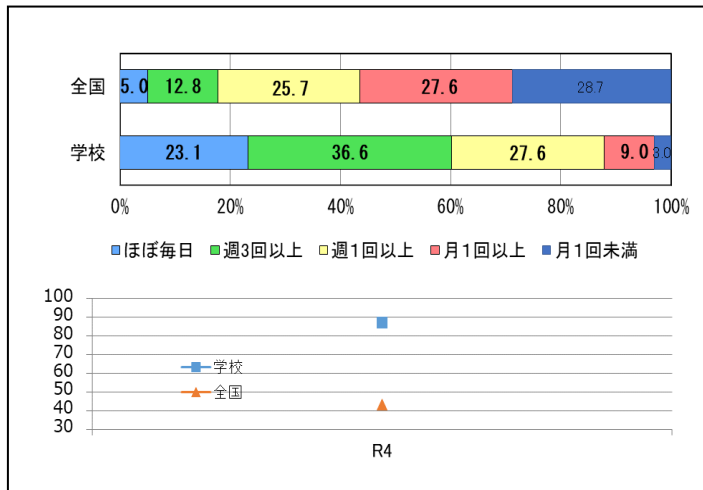
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか



学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、P C ・ タブレットなどの I C T 機器をどの程度使っていますか



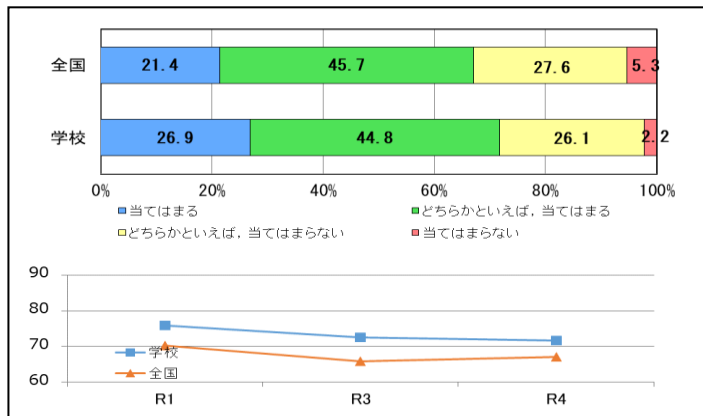
（考察）

「学級の友達と話し合う活動～」の肯定的な回答の生徒が 85% を超え、授業や学級活動の中で「人とつながり、自分の考えを広げ、深める」という研究テーマに沿った取り組みの成果がみられます。また、授業での意見交換では、タブレット（i P a d）を一つのツールとして有効に使うことができています。

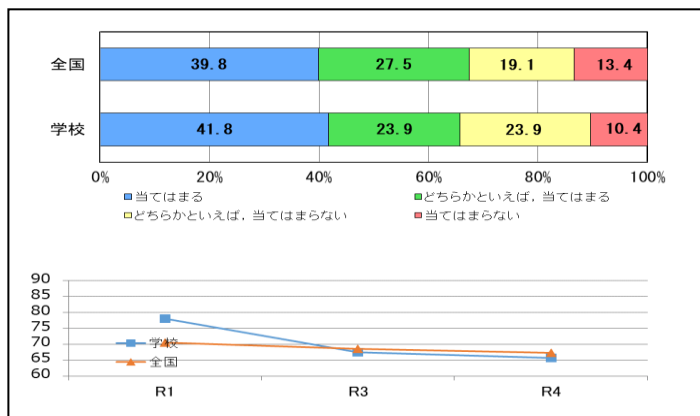
また、「理科の授業で、観察や実験～」の肯定的な回答の生徒が多く、生徒が主体的に観察や実験を行うことで、「科学的な思考」を身につけることができています。

【課題が残った項目】

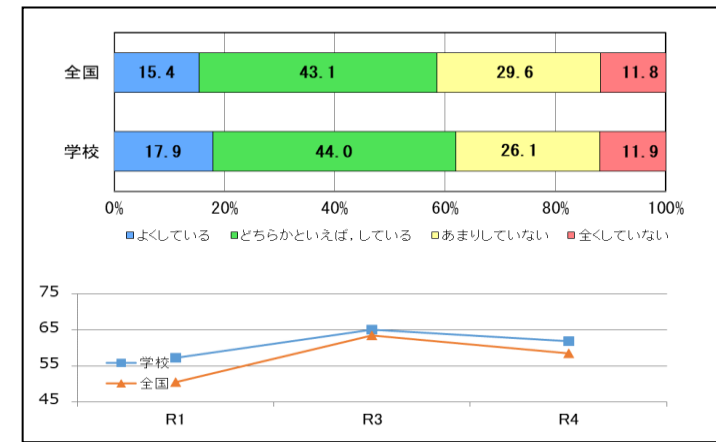
難しいことでも、失敗を恐れず挑戦している



将来の夢や目標を持っている



家で、自分で計画を立てて勉強していますか



（考察）

「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒の割合が低く、学校での学習が生徒の将来につながっていく取組みを進めていく必要があります。

また、「自分で計画を立てて勉強している生徒」は全国平均を上回っていますが、課題を感じます。これらの課題に対してキャリア教育等を通して、失敗を恐れず挑戦する姿勢を育てていきたいと考えます。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

（1）授業改善について

生徒の話し合う活動に対する肯定的な意識が高まっていることから、授業改善の成果が見られます。

話し合いなど協働的な学習活動の場や発表の場を設け、プレゼン資料や文章、話の組み立ての工夫などに重点を置き、発表の質を上げていけるようにしていきます。また、これらの取り組みを教員間で交流するために、相互授業参観や研究授業を行います。他校への授業視察も行い、授業力の向上を図ります。タブレット（i P a d）端末をはじめ、I C T 機器の活用は、今後も効果的な活用を研究し、実践に繋げていきます。

（2）家庭学習について

テスト前学習計画表を配布し、自分で課題を考え、目標を立てさせ、テスト後に振り返る取り組みを今後も検討していきます。自分で新たな問題や課題を見出し、計画的に取り組む力の育成に向け、家庭とも連携を図っていきます。一人一台の端末を有効に利活用し、「生徒の関心や課題に応じた学習材や学習課題の提供」や「多様な学習材や学習課題の中から生徒が自分ですすめる学習活動」等について研究していきます。

（3）課題解決型探究学習について

主体的・対話的で深い学びをめざして「総合的な学習の時間」を中心に 3 年間の系統性を確立し、「課題解決型探究学習」に取り組んできました。取り組みの中ではさまざまな専門知識や能力を持った人々と関わる機会も多く、人の役に立とうと実社会で活躍する人々の姿から深い学びを得た生徒も多くいます。加えて、課題に対する解決策を自ら考え、プレゼン等でアウトプットし、伝えた経験によって向上した力を生かして今後も実社会で活躍していくことを望む生徒が多く、「人の役に立つ人間になりたいと思う」という問いの肯定的回答に繋がったと推察されます。引き続き ESD の取り組みを中心に据え、授業、行事等において以下の 7 つの力を生徒が身につける取り組みを行います。

